

小学校第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

単元名：「みんなで助け合う学校づくり」（みんなが住みやすい町を目指して）

指導者 熊野町立熊野第一小学校 石井 智

- 1 日 時 令和4年7月4日（月）2校時
 2 場 所 4年2組教室
 3 学年・学級 第4学年2組（30名 男子16名 女子14名）



単元について

本単元は、第4学年の総合的な学習の時間の中で、「福祉」の学習として52時間扱う内の前半24時間である。子供たちにとって「福祉」とは聞き慣れない言葉であり、導入では「福祉」とは何かを確認する必要がある。その中で、ユニバーサルデザインとは、赤ちゃん・小学生以下・小学生・中高生・妊婦・高齢者など「全ての人にとって過ごしやすく配慮されたデザイン」であることを学ばせる。また、熊野町社会福祉協議会と連携し、目や耳・足が不自由な方・高齢者・妊婦等の体験活動を行う。

これらを通して、生活で不便さを感じている人がいることを知ったり、気持ちを感じたりする経験が大切であると考え。また、校内にも1年生や転入生、初めて来られた先生など、困っている人が他にいないか考える発言も見られた。

そこで、「学校はみんなにとって過ごしやすい建物と言えるのか？」を子供たちに問うてみた。すると、「車椅子では階段が難しい。」「低学年に聞いてみたい。」「校内を調べてみたい。」などの意見が出てきた。これらを調べるため、学校内の場所や設備が様々な困難を抱える人にとって過ごしやすく考えられているかについてグループで情報を収集・整理し、まとめていく。本単元の学びを通じて、様々な状況や立場にある周りの人々の存在に気づき、相手の気持ちを想像し、「自分たちには何ができるか」を協働して考え、実践する力を高められるようにする。この学習で身に付けた資質・能力を生かし、単元後半の28時間では学校から熊野町に視点を広げ、自分にできることを考えさせたい。

児童の実態

本学級の児童は、福祉について学ぶのは本単元が初めてである。福祉を実現していくためには、様々な困難を抱える人々の気持ちを想像し、自分たちにもできることを考えていく必要がある。そこで、児童が総合的な学習の時間や、自分の意識や行動について、以下のようなアンケートを行った。

総合的な学習の時間の学習に関する児童の意識調査アンケートの結果（令和4年5月25日実施/30名）

質問内容	肯定的回答（名）		否定的回答（名）	
	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
①総合的な学習の時間は好きですか。	14名 46.7%	11名 36.7%	5名 16.7%	0名 0%
	①に対する回答の具体例 ○調べ学習が楽しい。 ○誰かに伝えるのが好き。 ○色々なことができる。 ○みんなと学習するのが楽しい。 ●考えるのが苦手。 ●話すのが苦手。			
②道端で誰か困っている人を助けることができそうですか。	7名 23.3%	13名 43.3%	10名 33.3%	0名 0%
	②に対する回答の具体例 ○感謝されるのが嬉しい。 ○困っている人を放っておくのはかわいそう。 ●勇気がないから。 ●助けられる自信がないから。 ●話しかけにくい。 ●あまり人と関わりたくないから。			
③相手に応じて、方法や言葉づかいを考えて伝えることを意識していますか。	11名 39.3	12名 42.9	5名 17.9	0名 0%
④総合的な学習な時間で、友達と力を合わせて課題を解決することができていますか。	16名 57.1	9名 32.1	3名 10.7	0名 0%

①のアンケートの結果から、総合的な学習の時間に対して肯定的に捉えている児童が25名おり、調べ学習や表現することが好きな児童が多いことが分かった。一方で5名の児童は、「考えるのが苦手。」「話

すのが苦手。」などと否定的な回答をしている。また、②のアンケートでは、20名が道端の困っている人を助けることができそうと回答しているものの、否定的な回答をした児童は「話しかける自信が無い。」「あまり人と関わりたくない。」「勇気が出ない。」などと回答している。このことから、助けたい思いはあっても動けないと考えている児童や、他人への関心が薄い児童がいることが考えられる。①・②の両方の結果から否定的に回答している児童は共通して、他人に進んで関わろうとすることが苦手な傾向があるように考えられる。単元を通して、色々な立場の人々の気持ちを想像して共感したり、人との関わりの中で児童自らが考え、「自分たちの力でできた。」という達成感を味わわせたりしたい。

③のアンケートの結果から、相手に応じた表現ができていないと感じている児童が5名いる。そのため、誰に何のために伝えるのかを単元指導の中で明確にしていく。

④のアンケートの結果では、友達と協力して学習することができていると感じている児童が多くいることが分かった。しかし3名の児童については否定的に回答している。一人で学習したり友達と関わったりすることに苦手意識をもっていると考えられる。協働的な学びの場の工夫によって、児童が安心して意見を交流できる環境作りや、友達と学ぶことの良さを本単元で実感させたい。

単元の指導および協働的な学びの場の設定について

本単元の課題設定の場面では、まず自分たちの周りには様々な困難を抱えている方がいることに気付かせるため、困っている人の多いイラストを見て、何に困っているのか見付けたり、改善策を考えたりする活動から始める。その段階では曖昧であっても、学習を進め、調べ学習や社会福祉協議会の方の話を聞いたり、体験活動をしたりするにつれ、「大変な思いをしている人がいる。」「このままではいけない。」「何とかしたい。」と考えるようにしたい。また、その「福祉」への思いを大切に、自分たちにもできることを計画・実践し、発信する意欲を高めさせたい。

情報の収集や整理・分析の場面では、本やインターネットでの情報収集に加え、社会福祉協議会との連携を図っていく。また、校内の色々な人にインタビューをする等、可能な限り人とつながる場を設定していきたい。インタビューで得た情報は、学級で共有できるよう Google ワークスペースを活用し、いつでも閲覧できるように整理・保存していく。そして、収集した情報をもとに自分たちのできそうなことを挙げ、メリット・デメリットを整理し、実現可能であるか、本当に効果があるのか話し合わせたい。その活動の中で、賛成・反対意見を言ったり、質問したり付け加えたりするなどして学び合い、磨き合う活動を行っていく。そうした活動を通して、友達と学習に取り組むことの良さを再認識させたい。そうした過程で生まれた質の高まった案を実際に実行していく。

まとめ・表現の場面では、話し合いで出てきたことを基に、実践するグループに分かれて活動・発信させる。まとめたものを校内に伝えることで、自分達で考えたことを実行したという達成感を味わわせたい。また、学校内で自分たちが取り組めることを提案したり、実行したりすることで、友達と力を合わせて取り組むことの大切さや、自分たちで福祉の視点を大切にしたい学校を作っていくことの喜びを実感させたい。

協働的な学びの場については、体験活動や調査活動から情報を手に入れ、グループや学級で実行する案について考えたり話し合ったりする場面を設定する。また発信した取組について相互に評価し合ったり、校内の先生に評価してもらったりすることで、自分たちの活動を他者の視点を踏まえて振り返ることができるようにしたい。

単元の目標と評価規準

【単元の目標】

- 福祉について考えることを通して、自分の周りには様々な困難を抱えている方がいることに気づき、自分達にできることを考え、実行することができる。

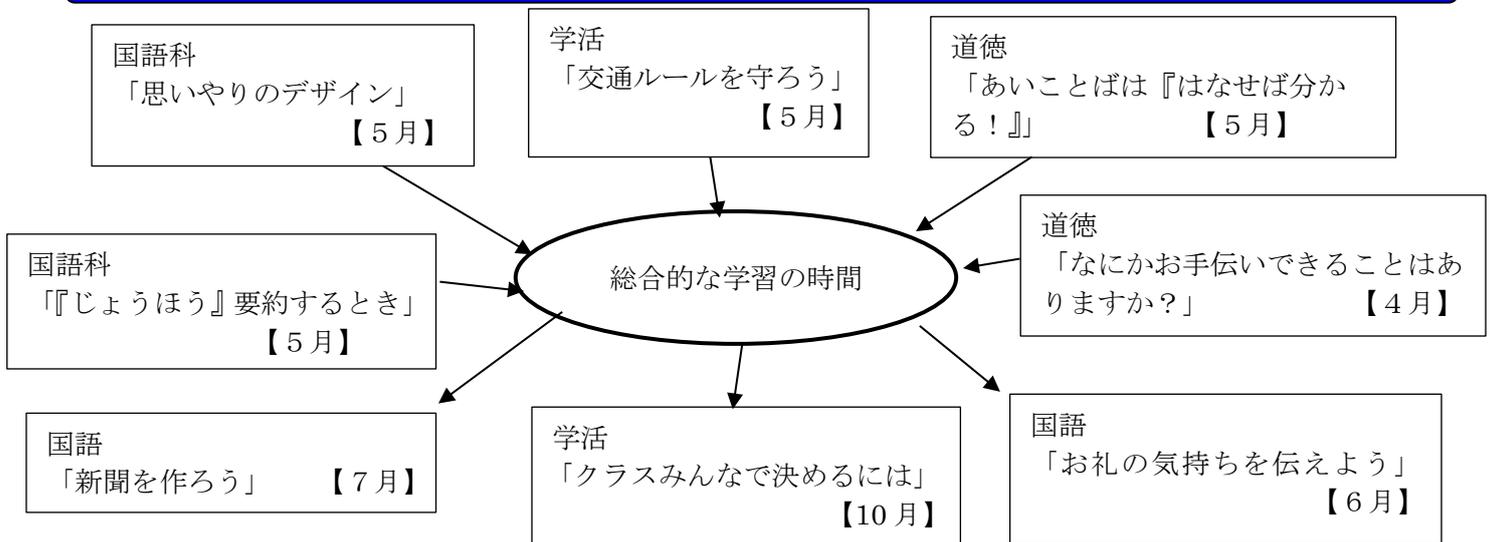
【評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
わかる・できる力	自分の考えを表現する力	協働する力	振り返る力
・自分たちの周りには様々な困難を抱えている人がいることに気づき、安心して暮らせるようにするために、色々な工夫をしていることが分かる。	・福祉体験で感じたことや、収集した情報を基に自分たちに何ができるのか考え、言葉や資料を用いて相手意識をもって発信・表現することができる。	・課題解決に向けて、仲間と協力して活動を進めたり、自分とは異なる意見や考え方を受け入れたりして改善に生かすことができる。	・学習を振り返り、福祉についての捉えの変容に気づき、自分たちにもできることがあることを実感している。

本単元で育成を目指す資質・能力のルーブリック

	Aの例	B	Bに到達させるための手立て
自分の考えを表現する力	様々な困難を抱えている人のことを想像し、自分達にできることを考え、相手を意識しながら発信することができる。	①福祉体験で感じたことや、収集した情報を基に自分達に何ができるのか情報を整理し、考えることができる。 ②自分の考えをもち、相手意識をもって発信・表現することができる。	福祉体験を想起させ、どんなことに困るのか、改善するとどんなことがよくなるのか想像させる。
協働する力	福祉を目指すために友達と力を合わせ、探究活動に意欲的に取り組むことが出来る。 自分とは異なる意見や考えがあることに気付いて理解し、自分の考えに生かすことができる。	福祉を目指すために友達と力を合わせ、探究活動に取り組むことが出来る。 自分とは異なる意見や考えがあることに気づき、相手の立場を理解しようとすることができる。	発表の仕方や反応の仕方にバリエーションをもたせ、進んで話し合いたくなるような環境作りを行う。

他教科等との関連



本時の学習（17／24 時間）

本時の目標

自分の思いをもって、デメリットに対するアイデアを考えたり話し合ったりすることができる。

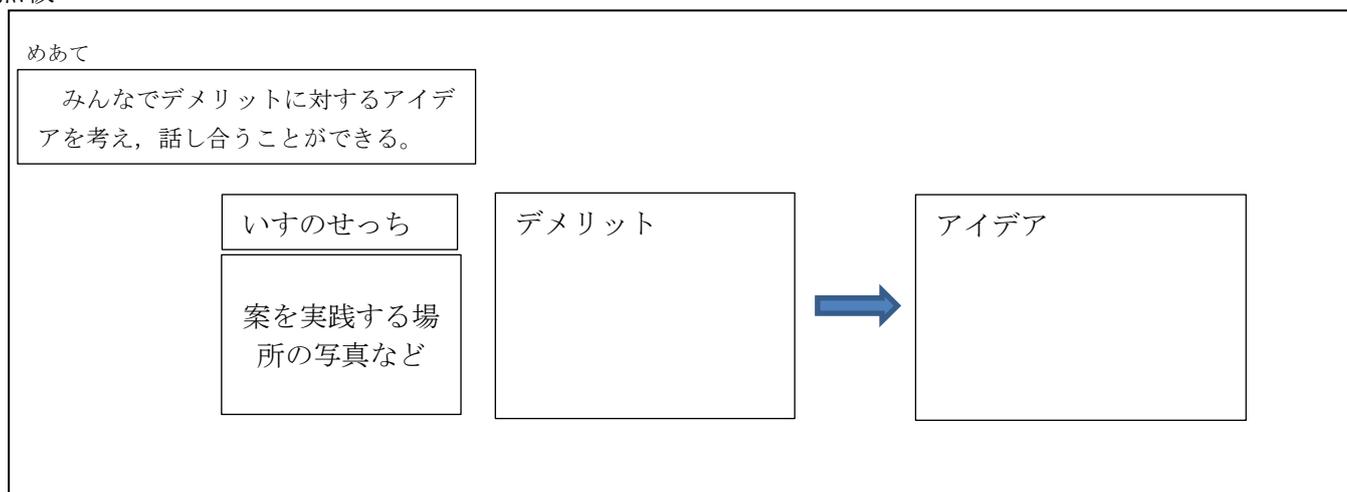
- (1) 準備物 発表案の掲示物 ワークシート
- (2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 ◎支援を要する児童への手立て	評価規準 (評価方法)
1 課題の設定		
○前時までの活動を確認する。	○案に対するデメリットについて話し合ったことを想起させる。	
2 めあての設定		
○めあてを確認する。	○本時で話し合うテーマ（階段の踊り場に椅子を設置する）を確認する。	
【めあて】デメリットに対するアイデアを考え、話し合うことができる。		
3 見通しをもつ		
○デメリットに対するアイデアを考える。 【個人思考】	【椅子の設置のデメリット】 ①狭いから椅子があると邪魔になる。 ②ぶつかって怪我をするかもしれない。 ③いすはどこから持って来るか。 ④本当に座ってくれるのか。 (児童の考え) ・踊り場の角に設置すれば良い。 ・いない時は片付ける。 ・廊下を歩くよう看板を作る。 ・パトロールをする。 ・体育館から持って来る。 ・何のための椅子なのか説明を貼る。 ○どんな困難を抱えている人が校内にいるのか分かるように掲示物を貼っておく。 ◎個別に声かけを行い、一問一答で一つのデメリットについて考えさせる。	
★4 協働的な学びの場		
○デメリットに対するアイデアをグループで話し合う。【グループ学習】	デメリットに対するアイデア（グループの考え） ・踊り場の角に設置すれば良い。 ・行事の時など必要な所にだけ置く。 ・廊下を歩くよう看板を作る。 ・行事の時にパトロールをする。 ・体育館から小さい持って来る。 ・何のための椅子なのか説明を貼る。 ◎友達の見解に納得した場合も自	・課題解決に向けて、仲間と協力して活動を進めたり、自分とは異なる意見や考え方を受け入れたりして改善に生かすことができる。 (ワークシート)

○グループでまとめた意見を全体で交流する。【全体】	分の考えになることを確認し、ワークシートの記入よりも話し合いに重きを置かせる。 ・抽象的な意見については繰り返し発問を行い、より具体的な意見にまとめていく。 ・あるアイデアが他のデメリットに対するアイデアになっている場合は色チョークで結ぶ。	
5 本時のまとめ		
○話し合った意見を整理する。	・学級で話し合い、自分たちでできそうな案を出せたことが大切であることを伝える。	
6 本時の振り返り		
○本時の振り返りをワークシートに書く。	・振り返りの視点を明確にする。 1 自分の考えをもつことができたか。 2 友達と進んで話し合うことができたか。 3 様々な立場の人のことを想像して意見を出せたか。	

板書計画

黒板



参考文献

- ・松村英治（2021）『令和時代の総合的な学習の時間入門 教科を越えて活用可能な指導力が向上する！』東洋館出版社
 - ・文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29告示）解説 総合的な学習の時間編』
 - ・関西大学初等部（2014）『思考ツールを使う授業 関大初等部式思考力育成法〈教科活用編〉』
- 【参考 Web ページ】
- ・「いわてユニバーサルデザイン電子マップ - ホーム - 岩手県」(<http://igis.pref.iwate.jp/udmap/>)（参照 2022-6-4）
 - ・「みんなでつくろう！ ユニバーサルデザインのまち」(<https://www.city.adachi.tokyo.jp/documents/38382/syuttyoukouza.pdf>)（参照 2022-6-4）